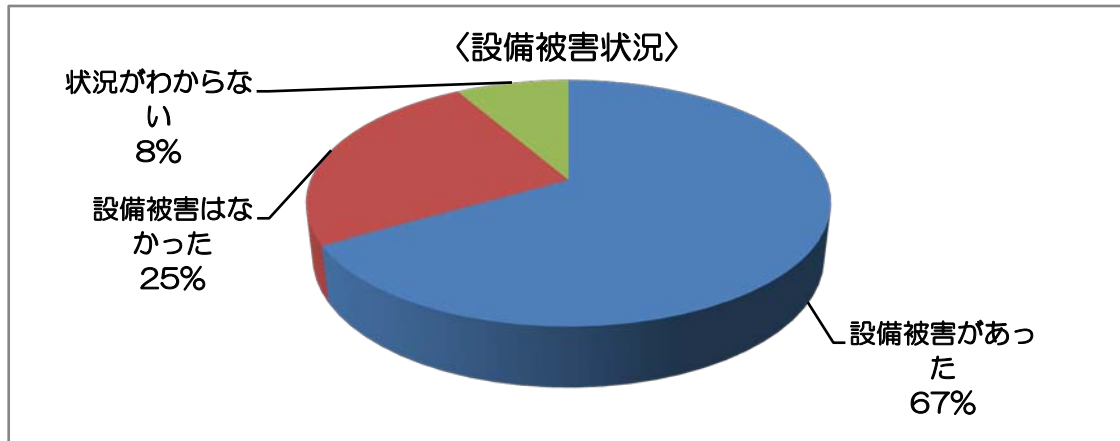


《図書館の防災を考える ―東日本大震災と福島県の状況から―》

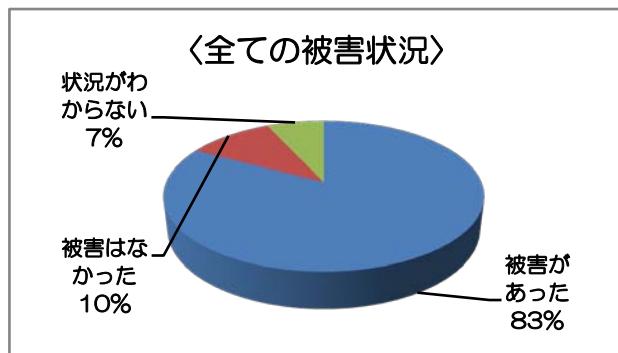
1. 福島県内の図書館における設備被害状況

〈サンプル自治体数24/29 2012.11調査〉

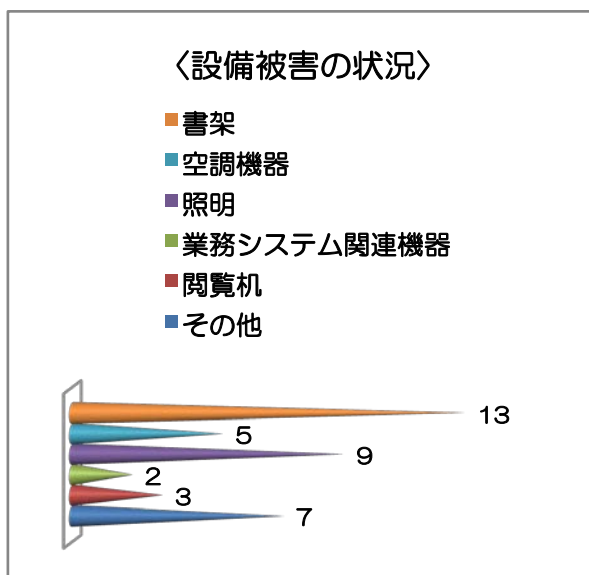


〈サンプル自治体数29 2011.4調査〉

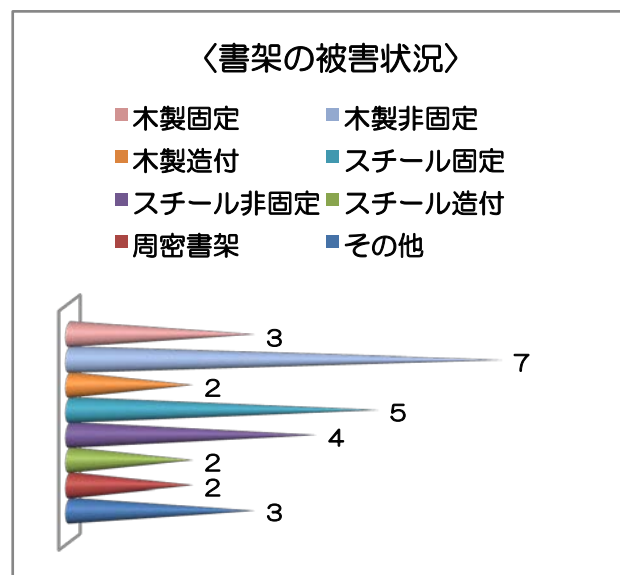
- * 「全ての被害状況」とは、施設被害、資料被害、人的被害等、何らかの被害の有無について調査したもの。
- * 「設備被害状況」とは、その中で、館内設備についてのみ調査したもの。



2. 設備の具体的被害状況（複数回答）



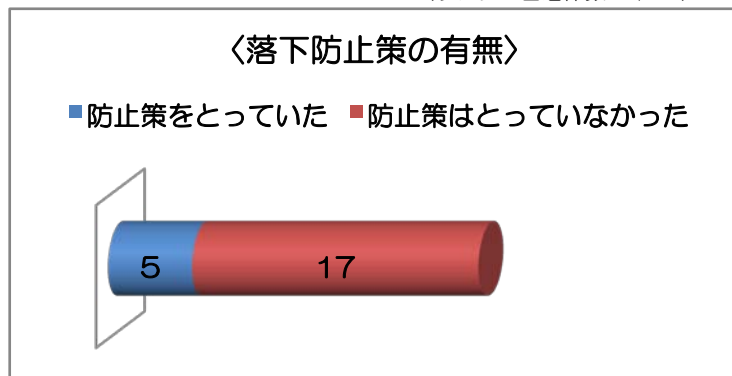
- * その他
 - ・電動稼働座席
 - ・監視カメラ
 - ・受変電設備
 - ・音響設備
 - ・舞台



- * その他
 - ・自動書庫
 - ・ラウンドケース書架

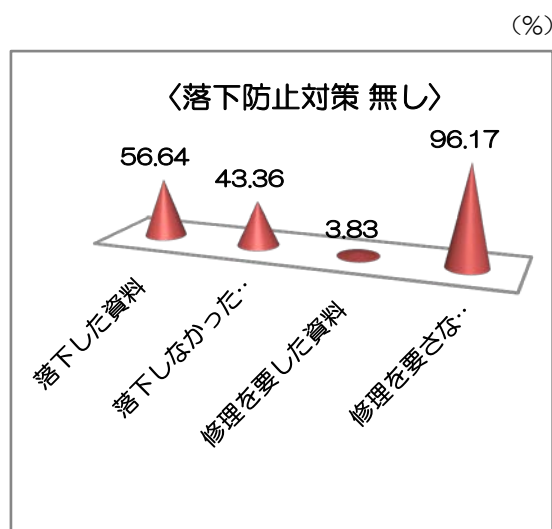
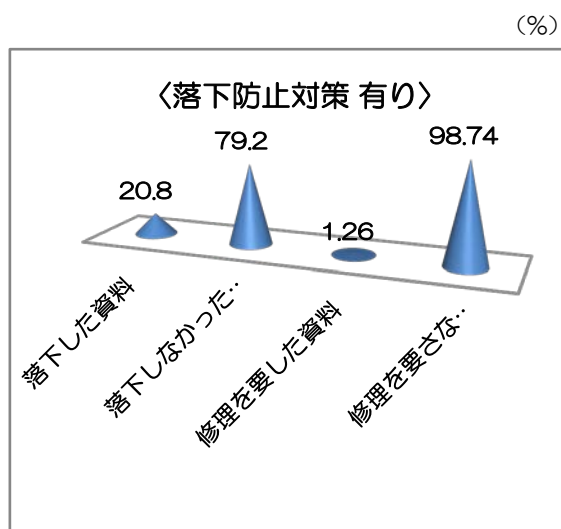
3. 書架の落下防止対策の有無（震災前）

〈サンプル自治体数23/29〉



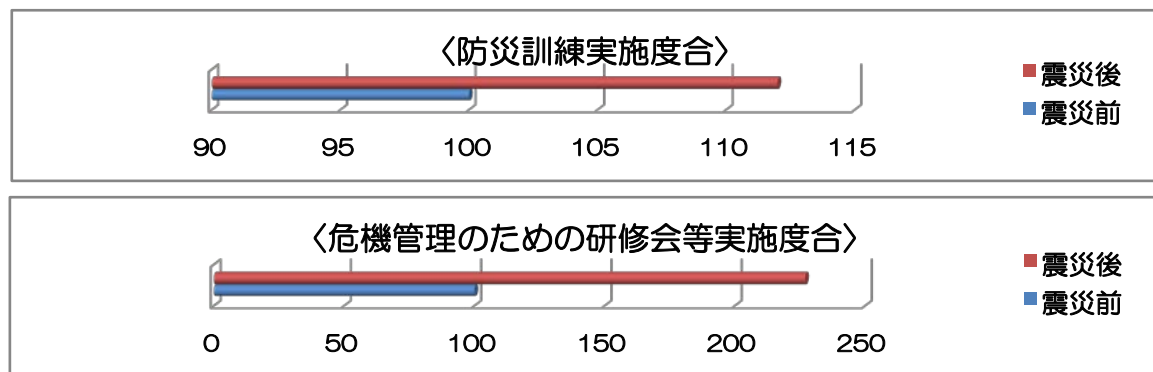
*とられていた落下防止策

- ・落下防止シート（1）
- ・ブックキーパー付き書架（1）
- ・低書架（2）
- ・資料を奥に押し込むなどの工夫（3）



*被害の少なかった会津地区等を除くと、防止対策をとっていなかった区分においては、落下72.3%、修理5.1%となる。

4. 防災に関する意識



【防災訓練】 震災後は、年度内に複数実施の自治体もある。

【危機管理意識】 危機管理に対しての、職員間の共通認識（情報の共有化）への意識の向上か、震災前後での実施回数は倍以上になっている。



- *特別なことではない対応（恒常的に持ち続ける意識の必要性）。
- *声を出すなどアクティブな行動の勇氣＝行動の確かさへつながら。
- *避難直後の対応の重要性
- *実務経験を活かすことで生まれる「防災マニュアル」の意味。